

成功の型にこだわると
成功する確率は小さくなる



- 02 インタビュー
- 06 教えて! 知るほど
源泉徴収票の見方を知る
- 09 マンガ「わたしはダメサレナイ!!」
役回りを演じてキャッシュカード
と暗証番号をだまし取る、
劇場型詐欺が急増中!
- 12 連載エッセイ
新谷尚紀 民俗学者
年齢と福を授ける年神様
お正月は1年で最大の
リセットのチャンス
- 15 そこが知りたい ぐらしの金融知識
「つみたてNISA」「iDeCo」
を使いこなした
長期の資産形成を考える
- 20 金融教育の現場レポート
“人生すごろく”で自分の人生と
リスク、それへの対策を考える
- 24 金融広報アドバイザーの誌上セミナー
高校生に伝えたい
お金で困らないための
ぐらしの基礎知識
- 27 まなびや訪問
大阪府
貝塚市立木島小学校
- 28 知るほどNEWS
「くらし塾 きんゆう塾」を
クイズでおさらい
「くらしきんクイズ」はじめました
- 30 おたよりコーナー
漢字矢印パズル
- 31 都道府県金融広報
委員会一覧
編集後記

表紙写真

秋葉まつり(撮影:森井禎紹)

「秋葉まつり」は土佐の三大祭りの一つ。200年以上続けられている歴史ある祭りで、高知県保護無形民俗文化財に指定されています。毎年2月9日～11日の3日間にわたって行われ、3日目の秋葉神社への還御(かんぎょ)の際には、華麗な練りと呼び物の「鳥毛ひねり」が行われます。

ITの仕事に夢を見出した 10代のころ

アメリカ・ミシガン州で生まれ育ったジェイソンさんは、17歳のときに飛び級でミシガン州立大学に入学しています。

「勉強は嫌いでした。だから、なるべく早く終えてしまおうと思っていた。そんな子どもでもでしたね」。

コンピューター関連のエンジニアだった父親は、ジェイソンさんが子どものころに会社をリストラされ、自ら会社を起ち上げました。仕事場は自宅。仕事をする父親の姿をいつもそばで見ているジェイソンさんは、父親が使わなくなったコンピューターに触れながら、高校時代にはすでにIT関係の仕事に就くことを考えていたそうです。

「僕が高校生だった2000年代のはじめにアメリカでドットコムバブル（日本でいうITバブル）が起きました。若い人のなかにも一夜にして億万長者になる人がいるのを見て、『自分もこういう仕事をしてお金を稼ぎたい』と思いました。もちろんバブルだから、はじけた後は大変な目にあつた人もいたけど、それでもやってみようという気持ちが強かったですね」。

ジェイソンさんは、大学でコンピューターサイエンスを学びながら、同時に日本語も学び始めます。それは、「ほかの人があまりやっていなかったから。アメリカでコンピューターサイエンスを勉強している人は僕以外にも大勢います。人と同じことしかできないければ、いつほかの人と入れ替えられてもおかしくない。ほかの人が持っている技能を身につければ将来のキャリアアップにつながるのではないか」と考えてのこと。

もともと、大学在学中、日本に1年間滞在しましたが、そのときは、日本語での会話はほとんどできなかったといま

人生を変えた

日本のお笑いとの出会い

ジェイソンさんはIT企業の日本法人の支社長として日本で暮らすことになってからも、日本語の勉強を続けます。そのころは、日本のテレビ番組を録画して繰り返し観るといふ独学が中心。そんななか、ジェイソンさんが日本で一躍有名となるきっかけとなったお笑いとの出会います。「当時、人気のあつたお笑い番組を観て、単純に面白いと思いました。それだけでなく、ボケやツッコミを辞書なしですべて理解できたのです。日本語を勉強して、そういう手応えを感じられた

インタビュー

厚切りジェイソンさん

IT企業役員・タレント

日本でIT企業の役員として働きながら、タレントとしても活躍する厚切りジェイソンさん。

日本人が当たり前だと思って使っている漢字を題材に

「ここがヘンだよ」とつっこむネタで人気を博したジェイソンさんは、

その独自の視点で日本の社会や人びとをどのように見つめているのでしょうか。

のは初めての経験だったこともあって、お笑いが好きになりました」。

別のIT企業に転職して役員になったとき、「もう一つ何かを始めたい」と思ったジェイソンさんは、週末だけの芸人の養成所があることを知りました。そして、平日はIT企業で働きながら、日曜日に養成所に通うことにします。

「IT企業の役員の傍ら芸人を目指すことができるのだろうか？そんな心配は、まったくなかったですね。お笑いをやってみたいと思って、それをやれる環境があった。やらない理由がありませんでした」。

養成所を卒業して2014年に芸人としてデビューするとアツという間にテレビに出演。おもむろに漢字をホワイトボードに書き、「ホワイ、ジャパニーズピール!?」の決めセリフとともに「この漢字、ヘンだよ」と指摘する斬新なネタで一躍人気者となります。例えば「円」という漢字に対しては、「よく見るとすべて四角。これほど丸くないものは存在しないだろう！」とつっこむ。日本人が「これはこういうもの」と日々何気なく使っている漢字に対してつっこみを入れるジェイソンさんの独自の視点は、「言われてみれば確かにそうだ」と笑いを誘いました。

「二足のわらじ」で 自分の可能性を広げる

その後もテレビで活躍するジェイソンさん。IT企業の役員とタレントのどちらが「本業」ですかと聞かれることに戸惑うといいます。「日本語の『本業』に当てはまる英語がないから、『本業と副業』についてそれまで考えたこともありませんでした。僕は会社役員であり、タレントでもある。以上。でも、日本では二足のわらじはいい意味では使われないみたいですね」。日本では、一つの仕事に集中しなければならぬという考え方が根強いようにジェイソンさんには映ります。「でも僕は、そういう意味の『本業』を無理に決めるのは自分の可能性を狭めることだと思っています。人にはたくさん可能性がある。それを自分で絞るのはもったいないですよ」。

さらに、ジェイソンさんは「成功の型にこだわると、成功する確率は小さくなる」ともいいます。「多くの人は、お笑い芸人を目指すなら、今の生活をすべて捨てなければならぬと考えます。でも、そうした成功の型にこだわると、今の状況でできることは何かという思考が働かなくなる。僕は常に、今ならこれができる、あれができると、その時どきで考える。そして自分が思ってもみなかった話があれば、まずやってみようと思える。恵まれた機会を活かして新しいスキルの

獲得につなげることを考えています」。

そんなジェイソンさんは、何かやりたいことがあっても、そのための方法論ばかりをあれこれ言って、なかなか一歩を踏み出そうとしない人にもどかしさを感じます。「本当にやりたいなら、やってみればいい。グズグズ言ってやらない人は、本当はやりたくないんじゃないの？ 代わりにやってあげようか？」と思ってしまおうです。

日本人と英語について 思うこと

自らの可能性を広げるべく日本で活動するジェイソンさんは、現在、子ども向け英語教育番組にも出演中です。日本では義務教育で英語を学ぶのに、なぜ英語を話せない人が多いのか。この質問に対しては、「受験」という答えが即座に返ってきました。

「受験という本来の英語学習とは関係のない『期限』を設定して勉強しているからです。そのため、大学に合格すると、英語の勉強を続ける理由がなくなってしまう。コミュニケーションの手段として英語を勉強していいのですね。目標を達成した途端にそれまでの努力を止めて、あつという間にリバウンドしてしまうダイエットと似ているところがあります」。今、日本では子どもにネイティブのような発音で英語をしゃべらせたいと考え、幼いころから英語の音に触れさせようと

する親も数多くいますが、これに対してジェイソンさんはもっと大切なことがあると説きます。

「英語を話すには発音より、考え方が大切です。日本人が自分の考えを英語で完璧に表現できたと思っても、実はまだ相手に伝わっていない部分がたくさんあると思います。それは、謙遜するとか、言いたいことを単刀直入に言わないといった文化の違いが影響しています。英語でコミュニケーションをするには、日本語で話しているときには言わないことも言わなければ伝わりません」。そして、たとえ発音がヘタでも片言の英語でもいいと言います。「一生懸命しゃべっていたら、『こういうことが言いたいのだろうな』と相手に伝わるんですよ。なぜなら、コミュニケーションは話している本人だけじゃなくて、聞く側にも相手の言うことを理解しようとする責任があるからです。自分が言ったことが伝わらなければ、相手から『それ、どういう意味ですか？』と聞かれるでしょう。つまり、コミュニケーションはお互いが協力することではじめて成り立ちます。日本人は英語を話すとき、その責任がすべて自分



側にあると勘違いしてしまっ
て、完璧な文を頭のなかで組
み立ててから話そうとします。
だから、会話のなかで黙って
しまう時間も多くなるのです
が、その必要はありません。
ヘタでもいいから自分の考え
を伝えようとする。それ
は、正しい発音や文法よりも
はるかに大事なことです」。

日本の企業がグローバルに 活躍するために

「日本は秩序があつて清潔、サービスが良くて暮らしやすい」というジェイソンさんは、本来なら大学卒業後、すぐに日本で働きたかったそうです。「ただ、新卒採用で提示された給料はアメリカの会社と日本の会社とでは大きな差がありました」。だから、アメリカでキャリアを積んで日本でも満足できる給料をもらえるようになってから日本に行くことにし

インタビュー

厚切りジェイソン

IT企業役員・タレント

やりたいことがあるなら
今の状況で
できることを考えよう



ました。ここには日本人とアメリカ人の
お金に対する考え方の違いがあるよう
です。

「日本人はお金の話をあまりしたがら
ないし、それが美德だとされていますが、
アメリカ人は、自分のキャリアや持って
いる資格からみて、自分にどのくらいの
金銭的な価値があるのかをある程度把握
しています。そして、会社からもらう給
料が、それを下回っていれば転職を考え
ます。日本と違って、キャリアにおいて
『義理人情』はそれほど関係ないし、自
分のお金の心配は誰もしてくれないから、
自分で主張するしかないんです。日本人
はお金の話をせずに我慢するから、会社
が儲かっても従業員の給料は上がらない。
たくさん給料を出さなくても文句も言わ
ず働いてくれるのであれば、会社はもち
ろん給料を上げようとしなくてすよね」。

こうした日本人が持つお金に対する価
値観や美德、これに代表される日本人の
精神論について、ジェイソンさんは、日
本人のなかだけの狭いコミュニティで
けで生きていく分にはよいと考えていま
す。「精神的なことを大事にすることで、

幸せを感じられるのならそれでいいと思
います。利益を最大にするだけが幸せで
はないから」と。でも、日本の企業が外
国企業とグローバルに競争することを考
えたとき、日本の将来を悲観せずにはい
られません。「日本の企業で働く人の給
料が増えなければ、優秀な人材を海外か
ら集められないし、日本の優秀な人材も
海外に出て行ってしまおうでしょう。それ
に、精神的なことを大事にするがために、
非効率なことを続けていては、大きな利
益を出すことは望めません。大きな利益
を出せない企業には、投資してくれる人
も集まりません」。

芸人になったとき、下積み生活といっ
たものは「免除されていると勝手に思っ
ていた」というジェイソンさんは言いま
す。「例えば日本の高校野球では、入部
当初はボール拾いしかやらせてもらえな
いと聞きます。でも、その時間を練習に
費やしたら、将来もっとすごい選手にな
れるかもしれない。それに、日本人がボ
ール拾いしている時間を使って、技術を
磨いていたアメリカ人に勝てるでしょ
うか？負けてもいいのですか？」。

日米双方の文化や価値観を知ったう
で、本音で語るジェイソンさんのメッセ
ージは耳が痛い部分もありますが、本質
をついていると思えます。会社役員・タ
レントという肩書きすら飛び越えるジェ
イソンさん、次は何に挑戦するのでしょ
うか。

厚切りジェイソン あつぎりじえいそん

1986年、アメリカ・ミシガン州出
身。17歳のとき、飛び級でミシガ
ン州立大学へ入学後、イリノイ
大学アーバナ・シャンペーン校へ
進み、エンジニアリング学部コン
ピューターサイエンス学科修士
課程修了。日本でIT企業役員
として働きながら、2014年にお
笑い芸人としてデビュー。芸歴5
ヵ月で「R-1ぐらんぷり2015」決
勝へ進出。現在、バラエティ、
CMなどで活躍中。著書に「日本
のみなさんにお伝えしたい48の
why」『厚切り英単語』がある。